『論叢』玉川大学教育学部紀要　第22号　2022，pp. 87～98

［原著論文］

原爆体験を語り継ぐ絵本の内容分析1
――小学校外国語科における地球市民性を育む教材開発を視野に――

尾関はゆみ

要　約

本研究の目的は，地球市民性育成の観点から原爆体験を描いた絵本の内容分析を行い，小学校外国語科での活用を想定した教材開発への示唆を得ることにある。分析の結果，今日の児童を対象とする教材に必要な要素や留意点として，以下三点の示唆が得られた。まず，教材における原爆体験の描き方・取り上げ方について，導入で恐怖心が先に立ち，児童が知ることの手前で立ち止まってしまわないよう配慮する必要があることである。次に,「日本人」や「人間」の観点からのみ原爆体験を捉えるのではなく，多様な人々，多様な生き物の存在や視点に気づき考えることができる要素が挙げられる。最後に，原爆の実相や現状を知ることから行動につながる契機となるような要素を含むことである。

キーワード：小学校外国語科，原爆体験，地球市民性，絵本，教材

1. 研究の目的と背景

本研究の目的は，原爆体験を描いた絵本（以下，原爆絵本という）の内容分析を行い，小学校外国語科における活用を想定した地球市民性を育む教材開発への示唆を得ることにある。

2020年度より，第5・6学年で外国語が教科となり，教材の重要性は増している。学習指導要領では，高学年の教材選定にあたって留意すべき事項として，以下の点を指摘している（学習指導要領，2017: 133-135）。

イ　英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活,風俗習慣,物語,地理，歴史，伝統文化，自然などに関するものの中から，児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし，次の観点に配慮すること。

（ア）　多様な考え方に対する理解を深めさせ，公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。

（イ）　我が国の文化や，英語の背景にある文化に対する関心を高め，理解を深めようとす

所属：教育学部教育学科　受理日　2023年2月24日

る態度を養うことに役立つこと。

（ウ）　広い視野から国際理解を深め，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに，国際協調の精神を養うことに役立つこと。

また，現行の学習指導要領で初めて目標の中に「言語活動」が明記された。文部科学省の『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』によれば，外国語科における言語活動とは，「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動」とされている。つまり，いわゆるゲーム性のあるアクティビティ等は，外国語学習の手段として有効ではあるものの，言語活動そのものではないことに留意する必要があるということである。そこには，児童が自分の考えや気持ちを伝え合いたいと思える，発達段階に応じた題材が重要となってくる。また，その題材について，英語で言語活動を行う必然性と意義があると児童自身が実感できることが大切である。

筆者は，現在「恵の丘長崎原爆ホーム」で長年編纂されてきた『原爆体験記』を基にした教材開発を進めている。前述のような観点から『原爆体験記』を考えるとき，核問題は現在進行形の国際的テーマであり，国際社会の中の日本，地球市民としての自分について考え，日本語と共に英語も使って伝え合う題材となり得る。また，こうした題材を英語も用いて児童期から学ぶ体験は，国際平和の視点をもって英語を学び，世界とつながる児童の育成につながるとともに，「何のために，英語を学ぶのか」という児童の問いに答えるものになると考える。

本研究では，児童期の外国語教育において，重要な教材の一つに位置付けられている絵本[1)]に着目し，原爆絵本の内容分析を行う。

2. 分析方法

2.1. 分析対象

原爆絵本の収集にあたっては，村上（2017），村上（2018）の原爆絵本リストに加え，玉川大学教育学術情報図書館蔵書検索，及び日本最大の絵本児童書を紹介するウェブサイトである「EhonNavi」にて，「原爆，絵本」「戦争，絵本」「平和，絵本」をキーワードとして検索した[2)]。その中から，玉川大学教育学術情報図書館に所蔵されている絵本及び2022年11月までに入手した43作品のうち，原爆に関する記述・描写のないもの，絵本でないもの（挿絵入りの詩集やイラスト付きの解説資料集等）は，今回は対象から外した。写真絵本（絵の代わりに写真が使われているが，物語性のあるもの）については対象に含むこととした。対象とする絵本には，日本語，英語，日英語が併記されたものを含む21作品を分析対象とした。

2.2. 分析方法

有馬（2021）の内容分析の方法を参考に，①登場人物に関する項目，②原爆描写に関する項目，③原爆体験への視点に関する項目から対象絵本の分析を行った。①については，主人公，主人公以外の登場人物，語り手を項目とした。②については，原爆投下以前，投下時，投下後の描写，及び被爆した登場人物を項目とした。原爆投下時及び投下後の描写に関する項目については，広島平和記念資料館（2020）の原爆被害に関する解説を基にした。③については，UNESCO（2015）の地球市民教育の中核概念を基に，以下の三点を分析項目とした。一つは，「日本人」以外の異文化背景をもつ人々の被害についての描写があるか。二つ目は，人間以外の自然や動植物への被害についての描写があるか。そして，三つ目は，核兵器の現状や現状に対する行動に関する描写があるかである。

なお，本稿は日本語，英語，日英併記の絵本を対象とし，地球市民性育成の観点からその内容や描かれ方を分析することによって，今日の児童を対象とする教材への示唆を得るものとし，言語的観点からの分析は「原爆体験を語り継ぐ絵本の内容分析2」の課題とする。

3. 結果と考察

3.1. 対象絵本のプロフィール

分析対象とした原爆絵本は，表1の通りである。対象絵本の出版年は，1987年から2022年までである。『まちんと』や『ひろしまのピカ』のように初版から版を重ねている絵本，『ピカドン』のように復刻版が出版されている絵本もあることから，表1には初版と分析対象絵本それぞれの出版年を記した。そのほかの項目については，すべて今回の分析対象とした絵本に基づいている。版や刷の表記は，対象絵本の表記に準じている。出版された国は，21作品中日本1作品，アメリカが2作品，カナダが1作品，オーストラリア・ニュージーランドが1作品，香港が1作品であった。出版元はさまざまで，特に特定の出版社・団体の絵本が多いということはない。言語については，21作品中日本語の絵本が8作品，英語が5作品，日英併記が8作品であった。そのうち，日本語の絵本『ひろしまのピカ』と『わたしのヒロシマ』は，それぞれ英語版*HIROSHIMA NO PIKA*，*MY HIROSHIMA*がある。『ピカドン』は，1950年の初版から日本語であったが，1987年に出版された復刻版から日英併記になっている。また，『A-Bombed Aogiri II Tale Aogiri's Dream　被爆アオギリ二世物語アオギリのねがい』は，1996年に出版された初版は日本語だったが，2003年から日英併記で出版されている。本研究では，日本語・英語以外の言語の絵本は分析対象としてはいないが，*MY HIROSHIMA*は14言語に，『おりづるの旅　さだこの祈りをのせて』は33言語に翻訳されている。

概観すると，原爆絵本は過去に出版された絵本の増刷だけでなく，現在も毎年のように新し

表1　分析対象絵本一覧（筆者作成）

ID	書名	文・絵	国	出版社	出版年		言語			頁数 判型
					初版	分析対象	日本語	英語	日英語併記	
1	ピカドン ＜復刻新版＞	文・絵：丸木位里・丸木俊 英訳：ナンシー H. ツニソン・石川保夫	JPN	小峰書店	1950	1987年 （復刻新版第１刷）			○ （復刻版）	80p 24.0×19.0cm
2	まちんと	文：松谷みよ子 絵：司修	JPN	偕成社	1978	2020 （改訂第48刷）	○			32p 26.0×22.0cm
3	ひろしまのピカ	文・絵：丸木俊	JPN	小峰書店	1980	2020 （第119刷）	○			48p 24.5×25.0cm
4	HIROSHIMA NO PIKA	文・絵：Toshi Maruki	USA	Lothrop, Lee& Shepard Books	1980	1980		○		48p 23.0×24.5cm
5	MY HIROSHIMA	作・文：Junko Morimoto 訳：Isao Morimoto, Anne Bower Ingram	AUS NZ	Hachette Australia	1987	2014		○ ※他14言語翻訳版有		32p 24.0×24.5cm
6	わたしのヒロシマ	作・文：森本順子	JPN	金の星社	1988	1988	○			32p 24.0×24.5cm
7	原爆の少女ちどり	作・絵：山下まさと	JPN	汐文社	1989	1989 （第１版第１刷）	○			40p 25.0×26cm
8	SADAKO	文：Eleanor Coerr 絵：Ed Young	CAN	Puffin Books	1993	1997		○		48p 20.5×25.5cm
9	A-Bombed Aogiri II Tale Aogiri's Dream 被爆アオギリ二世物語 アオギリのねがい	絵・文：高野裕子，三上恵子，森下敦子 英訳：大門久則，寺澤信彰 英文監修：P.ティモシーアーヴィン	JPN	広島平和教育研究所	2003 ※日版は1996	2015 （改訂日英版）			○	32p 25.0×25.0cm
10	おりづるの旅 さだこの祈りをのせて	作：うみのしほ 絵：狩野富貴子	JPN	PHP研究所	2003	2022 （第24刷）	○ ※他33言語翻訳版有			40p 23.5×23.5cm
11	8月6日のこと	文：中川ひろたか 絵：長谷川義史	JPN	ハモニカブックス	2011	2021 （第8刷）			○	32p 27.0×19.5cm
12	Sadako's Cranes	作・絵：Judith Loske 訳：Kate Westerlund	HK	Michael Neugebauer Publishing Ltd.	2011	2015		○		44p 30.0×22.5cm
13	さがしています （写真絵本）	作：アーサー・ビナード 写真：岡倉禎志	JPN	童心社	2012	2019 （第17刷）	○			32p 27.0×19.5cm
14	1945年のクリスマス ながさき アンジェラスのかね	文：中井俊巳 絵：おむらまりこ	JPN	ドン・ボスコ社	2017	2017 （第1刷）	○			32p 30.5×21.5cm
15	夾竹桃物語 わすれていて ごめんね A Tale of Those Forgotten	画・文：緒方俊平	JPN	朝日新聞出版	2018	2018 （第1刷）			○	48p 22.0×30.5cm
16	ヒロシマ 消えたかぞく （写真絵本）	著者：指田和 写真：鈴木六郎	JPN	ポプラ社	2019	2019 （第3刷）			○	40p 23.0×23.0cm
17	シュモ―おじさん MR. SCHMOE CAME TO HIROSHIMA	文・絵：とがわこういちろう 英訳：エリザベス・ボールドウィン，小泉直子	JPN	シュモ―に学ぶ会	2019	2019 （第1刷）			○	32p 30.5×21.5cm
18	被爆樹木の絵本 きっと きこえるよ THE VOICES OF THE TREES	作：藤原美香，村本美香 絵：Hiroe，瀧川裕恵 樹木監修：鈴木雅和 英訳：Haruki Asagoshi, Emiko Asagoshi, Masako Arimoto, Yukiko Mizuta 英訳監修：Annelise Giseburt	JPN	広島県広島市南区旭3-2-20-2401（ダブルミカ）	2019	2020 （第2版第1刷）			○	32p 30.5×21.5cm
19	A BOWL FULL OF PEACE	作：Caren Stelson 絵：Akira Kusaka	USA	Carolhoda Books	2020	2020		○		40p 29.0×24.5cm
20	核兵器をなくすと世界が決めた日	監修・解説：川崎哲 文：高橋真樹，岩崎由美子 絵：TOTO	JPN	大月書店	2022	2022 （第1刷）			○	40p 21.0×23.5cm
21	光に向かって サーロ―節子 ノーベル平和賞のスピーチ	くさばよしみ編 絵：やまなかももこ	JPN	汐文社	2022	2022 （初版第1刷）	○			32p 25.0×22.0cm

い絵本が異なる出版社や団体から出版されていることがわかる。言語に関しては，21作品中13作品が英語または日英併記で出版され，多言語に翻訳されているものもあり，原爆体験を広く世界に語り継ごうとする意思が窺える。

3.2. 登場人物に関する項目

21作品のうち，*HIROSHIMA NO PIKA*及び*MY HIROSHIMA*の2作品は，『ひろしまのピカ』，『わたしのヒロシマ』と同一の物語であることから，ここでは19作品として分析を行った。結果は，表2の通りである。

主人公は，19作品中11作品が女児であった。11作品のうち，3作品は広島平和記念公園の「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子氏に関する絵本で，2作品は禎子本人を主人公としたもの，1作品は禎子の友人を主人公としたものだった。そのほか，女児を主人公としたものには年齢の記載がないものもあるが，幼児から小学生くらいの年齢の子どもが描かれている。多くが著者本人や，著者が家族や親族，友人をモデルに描いているものが多く，また主人公の家族が登場するものが多い。男児は，主人公の女児の兄弟として登場する作品は複数見られるが，男児が主人公として登場するものは，今回の分析対象の中にはなかった。『8月6日のこと』は，著者（男性）が自身の母や伯父の話を伝聞形式で「わたし」の語りとして展開する作品である。

一方，子ども以外の人物を主人公としているものには，『ピカドン』では「おばあさん」，『シュモーおじさん』は原爆で住まいを失った広島・長崎の人たちに家を建ててまわったアメリカ人の大学講師フロイド・シュモー氏，『光に向かって』は13歳のときに広島で被爆しその後渡米，核廃絶運動に尽力してきたサーロー節子氏を描いた絵本であった。人間以外を主人公にした作品は，被爆樹木を擬人化した『きっときこえるよ』や『被爆アオギリ二世物語　アオギリのねがい』，さまざまな動植物が登場する『夾竹桃物語 わすれていてごめんね』，被爆者の所持品等「物」に焦点をあてた『さがしています』の4作品であった。

発行年代別に見ると，1980年代までは『ピカドン』を除いて主人公は女児である。1990年代以降の作品になると，前述のように多様な主人公が見られる。

3.3. 原爆描写に関する項目

原爆描写に関しては，1980年代までの作品は原爆描写を詳細に描いているものが多い（表2）。特に，火事，建物の崩壊，周囲の被害者，急性障害の項目にあてはまる具体的描写が見られる。原爆によって火の海となり崩壊した町，服は裂けあるいは裸で折り重なるように道に倒れている人々，爛れた皮膚がぶらさがった状態で逃げ惑う人々の様子が描かれている。一方，1990年代以降になると，被爆した人々を直接的に描いた作品が減り，原爆体験に関する描写が多様

化してきている。

前述の登場人物の項目に関する結果と合わせると，1980年代までの作品では，幼い主人公の女児を中心に，原爆投下前の家族の日常生活が描かれ，原爆投下によって主人公やその家族の人生が一変してしまった様子が描かれている。一方，1990年代から2000年代では，『きっときこえるよ』や『被爆アオギリ二世物語　アオギリのねがい』のように，擬人化した被爆樹木を通して，原爆の悲惨さや平和の大切さを伝える絵本が出版されている。

こうした変化は，表紙に描かれている絵や，その絵の色彩の違いにも表れている。『ひろしまのピカ』や『原爆の少女ちどり』は，表紙に被爆した主人公やその家族が描かれ，炎や黒い雲や煙，黒い雨，黒焦げた人々，傷を負った人々等，そうした状況を描いた赤や黒の色彩の印象が強く，原爆の実相を伝えようとする作者の意思が感じられる。一方，前述の被爆樹木についての2作品や『シュモーおじさん*MR. SCHMOE CAME TO HIROSHIMA*』は，表紙は青々とした木々の緑や，光を感じさせる黄色の色彩の印象が強く，未来への希望を表現しようとする意図が窺える。さらに，『ヒロシマ　消えた家族』や『さがしています』のように，写真で原爆が人々にもたらす影響を伝えようとする作品も見られる。写真のリアルさが，読み手にそこに確かにいた人々を感じさせ，原爆によって命を奪われた人々の無念を際立たせている。

このような描かれ方の変化の要因として，以下の二点が考えられる。一つには，原爆から年月が経ち，戦争や原爆を体験していない作者が増えたことによるのではないか。もう一つは，読者への配慮が考えられる。原爆体験は壮絶なものであるため，他者の体験であっても，そのトラウマティックな場面を見聞きすることでトラウマ反応がおきる「二次受傷」の問題が，平和教育の実践においても指摘されている（村本，・芳賀，2014）。原爆や被爆者の実相を知ることが重要であることを疑う余地はないが，まずは読者が手に取りやすいよう，また原爆体験を知る手前で恐怖心が先に立ち，知ろうとすることを避けてしまわないようにする配慮でもあると考えられる。

3.4. 原爆体験への視点に関する項目

原爆体験への視点に関する項目については，以下の三点から分析した。

一つ目は，異文化背景をもつ人の被害についての描写である。これについては，『ひろしまのピカ』，『さがしています』，『核兵器をなくすと世界が決めた日』にその描写が見られた。『ひろしまのピカ』では，以下のように語られている。

> この原子爆弾でしんだのは，日本人ばかりではありませんでした。むりに日本につれてこられ，はたらかされていた朝鮮のひとも，おおぜいしんだのです。（中略）
> 8月6日につづいて，8月9日，長崎に，二ばんめの原子爆弾が，おとされました。
> おおぜいの日本人がしにました。たくさんの朝鮮のひともしにました。ひろしまでも長崎

でも，原子爆弾をおとした国のアメリカ人も，なんにんかしんでいるのです。
中国人もロシア人もインドネシア人も，しんでいるということです。

上記の文とともに，折り重なるようにして倒れている人々の上空を舞う，複数のチマチョゴリが描かれている。また，『さがしています』では，アメリカ兵の捕虜を収容していた独房の鍵の写真が見開きで掲載されている。この鍵でアメリカ兵が閉じ込められ，日本兵が見張り，しかし8月6日の原爆で全員が犠牲となったことが記されている。人を閉じ込めて何になるのか，本当に閉じ込めなくてはならないのはウランではないのかと，この鍵に語らせている。これらの絵本の描写は，日本人以外の人たち，特に強制労働を強いられていた朝鮮人の人たちも多く犠牲となっていることや，日本人の加害性についての気づきをもたらすものである。

また，『核兵器をなくすと世界が決めた日』は，核兵器禁止条約がなぜできたのかが描かれている絵本である。主人公は，現在も核兵器が世界には1万発以上存在することを知り，それによって苦しんでいる人が世界中にいることに気づいていく。核兵器は，相互関連性，相互依存性を伴う地球規模の問題であることを直接的に描いている。

二つ目は，人間以外の自然や動植物への被害に関する描写である。この項目に関して，該当する描写を含む作品が複数見られた（表2)。『ひろしまのピカ』では，主人公のみいちゃんが原爆投下後両親と逃げていく際に目にした動物たちの様子が，下記のように描かれている。

チョン，チョン。
みいちゃんの足もとを，とんでいくものがいます。
はねがもえて，とべなくなったつばめでした。チョン，チョン。
川かみのほうから，ゆっくりと，ひとがながれてきました。
ねこも，ながれてきました。

『夾竹桃物語　わすれていてごめんね』は，動植物たちから見た原爆被害が描かれている絵本である。登場する動植物たちは，広島市の平和記念公園で，8月6日平和記念式典での人間のスピーチにじっと耳を傾ける。しかし，動植物の原爆被害については今年も語られず，自分たちの祖先も被害者なのにと落胆する様子が描かれている。そして，夾竹桃のお母さんが，原爆投下当時のことを集まった動植物たちに話して聞かせるという展開になっていく。この作品は，原爆被害が人間への被害についてのみ語られる傾向にあることへの問題提起である。広島・長崎への原爆投下によって，人間だけでなく，自然やそこに生きる動植物にどれほどの被害があったのか，そこにも目を向ける必要性を訴える作品である。

三つ目は，核兵器の現状や現状に対する行動に関する描写である。『おりづるの旅　さだこの祈りをのせて』では，禎子の死後，同級生らの運動により「原爆の子の像」が作られたことを知ったアメリカの子どもたちが，広島・長崎に投下された原爆を作った町に「こども平和像」

表2　内容分析一覧（筆者作成）

◇文での描写　□絵・写真での描写　具体的・詳細な描写がされている場合はそれぞれ黒塗り

ID	書名	出版年		主人公・名前・性別・年齢	主人公以外の主な登場人物	語り手	被爆した登場人物	原爆投下以前の描写	原爆投下時の描写				原爆投下後の描写										異文化背景をもつ人に関する描写	自然・動植物に関する描写	核兵器の現状・運動に関する描写	言語		
		初版	分析対象						投下日時	光	音	きのこ雲	熱線	爆風	放射線	火事	建物崩壊	周囲の被爆者	黒い雨	急性障害	後障害				日本語	英語	日英併記
1	ピカドン<復刻新版>	1950	1987年（復刻新版第1刷）	おばあさん 女性 不明	おじいさん 被爆した人々	第三者	主人公 おじいさん 被爆した人々	◆■	年月日時刻	◇	◇	□		◆■		◆■	◆■	◆■		◆■	◆■		◆■				○
2	まちんと	1978	2020（改訂第48刷）	無名 女児 3歳	母	第三者	主人公 母	◇□	年月日朝	■		■				◇■	◇	◇	◇■	◇□					○		
3	ひろしまのピカ	1980	2020（第119刷）	みーちゃん 女児 7歳	父母	第三者	主人公 父母	◆■	年月日時刻	◆■				■		◆■	◆■	◆■	◇■	◆■	◆■	◆■	◆■		○		
4	HIROSHIMA NO PIKA	1980	1980	Mii 女児 7歳	父母	第三者	主人公 父母	◆■	年月日時刻	◆■				■		◆■	◆■	◆■	◇■	◆■	◆■	◆■	◆■			○	
5	MY HIROSHIMA	1987	2014	I 女児 記載無し	父母 姉二人，兄	主人公	父母 姉二人，兄	◆■	年月日時刻	◇	◇	■					◆■	◆■		◆■						○	
6	わたしのヒロシマ	1988	1988	わたし 女児 記載無し	父母 姉二人，兄	主人公	父母 姉二人，兄	◆■	年月日時刻	◇	◇	■					◆■	◆■		◆■					○		
7	原爆の少女ちどり	1989	1989（第1版第1刷）	ちどり 女児 記載無し	母	主人公と仲良しの山鳩3匹	主人公 山鳩 母	◇□	年月日時刻	◆■	◇	■				◆■	◆■	◆■	◆■	◆■			◇□		○		
8	SADAKO	1993	1997	Sadako 女児 記載無し	父母 親友，同級生	第三者	主人公														◆■			◇■		○	
9	A-Bombed Aogiri II Tale Aogiri's Dream 被爆アオギリ二世物語 アオギリのねがい	1996	2015（改訂日英版）	アオギリの苗木 記載無し	アオギリの母木	第三者	アオギリの母木	◆■	年月日曜日朝	◆■	◇		◆■	◆		◆■		◆		◆			◆■				○
10	おりづるの旅 さだこの祈りをのせて	2003	2022（第24刷）	さだこ 女児 2～12歳	父母兄 同級生	第三者	主人公 母兄	◇□	年月日時刻	◆■	◆				◇	◇□	◆■	◆□		◆□	◆■			◆■	○		
11	8月6日のこと	2011	2021（第8刷）	わたし 記載無し 記載無し	母 母の兄	主人公	母 母の兄	◇□	月日	◆■	◆■	■					◆■	◇□					◇				○
12	Sadako's Cranes	2011	2015	Sadako's friend 女児 記載無し	Sadako	主人公	Sadako	◇□				◇	◇			◇	◇				◇			◇		○	

ID	書名	出版年		主人公・名前・性別・年齢	主人公以外の主な登場人物	語り手	被爆した登場人物	原爆投下以前の描写	原爆投下時の描写				原爆投下後の描写										異文化背景をもつ人に関する描写	自然・動植物に関する描写	核兵器の現状・運動に関する描写	言語		
		初版	分析対象						投下日時	光	音	きのこ雲	熱線	爆風	放射線	火事	建物崩壊	周囲の被爆者	黒い雨	急性障害	後障害				日本語	英語	日英併記
13	さがしています（写真絵本）	2012	2019（第17刷）	被爆者にまつわる品・建物14点		被爆者にまつわる品・建物	主人公の持ち主・関係者	◆	年月日時刻	◆			◆■		◆		◆	◆			◆	◆□			○		
14	1945年のクリスマスながさきアンジェラスのかね	2017	2017（第1刷）	かやの（永井隆博士の娘）女児 0歳～現在	父母兄祖母	主人公	父母	◆■	年月日	◇■		■					◇				◆□				○		
15	夾竹桃物語 わすれていて ごめんね A Tale of Those Forgotten	2018	2018（第1刷）	キョウチクトウの母	複数のハト，カラス，アリ少年	第三者	キョウチクトウの母子，動植物		月日	◇□	◇		◆■			◆■		◆■						◆■			○
16	ヒロシマ消えたかぞく（写真絵本）	2019	2019（第3刷）	鈴木公子 女児 記載無し	父母 兄弟妹 いとこ	主人公（投下前）第三者（投下後）	主人公 父母 兄弟妹	◆■	年月日時刻			■	◆	◆						◆							○
17	シュモーおじさん MR. SCHMOE CAME TO HIROSHIMA	2019	2019（第1刷）	シュモーおじさん 男性 記載無し		第三者		◇□									◇										○
18	被爆樹木の絵本 きっと きこえるよ THE VOICES OF THE TREES	2019	2020（第2版第1刷）	被爆樹木		主人公	主人公		年月日時刻							◇		◇□						◆■（巻末に詳細）				○
19	A BOWL FULL OF PEACE	2020	2020	Sachiko 女児 記載無し	父母 兄弟妹	第三者	主人公 父母 兄弟妹	◆■	月日	◇								◇□		◇□	◇□			◆■（巻末にも詳細）		○	
20	核兵器をなくすと世界が決めた日	2022	2022（第1刷）	無名 女児 記載無し	サチコ（被爆者）各国の子どもたち	主人公 主な登場人物	サチコ			◇				◇		◇		◇□	◆■	◆■	◇	◆■		◆■			○
21	光に向かってサーロ―節子 ノーベル平和賞のスピーチ	2022	2022（初版第1刷）	サーロ―節子 女性 記載無し	サーロ―節子	主人公（スピーチ）第三者（スピーチ以外）	主人公 姉，おじ，おば，おい 級友351名		時刻	■						◆■	◆■	◆■		◆■	◆■			◆■	○		

を建てるまでの実話が描かれている。また，前述のサーロー節子氏がノーベル平和賞を受賞した際に行ったスピーチを絵本にした『光に向かって』や，核兵器禁止条約を描いた『核兵器をなくすと世界が決めた日』では，核兵器廃絶に向けて行動する人々の様子が描かれている。UNESCOの地球市民教育の中核概念でも，「行動すること」の重要性が挙げられている。これらの絵本では，行動する重要性が描かれている。

4. まとめと今後の課題

原爆絵本の内容分析を通して，限られた作品数ではあったが，原爆体験に関する教材に必要な要素や留意点として，以下三点の示唆が得られた。まず，原爆体験の描き方・取り上げ方についてである。児童にとって，導入で恐怖心が先に立ち，原爆体験について知る手前で立ち止まってしまわないような配慮を検討する必要がある。次に，「日本人」や「人間」の観点からのみ原爆体験を捉えるのではなく，そこに共にいたはずの多様な人々，多様な生き物の存在や視点に気づき考えることができる要素があることである。そして最後に，原爆の実相や現状を知り，行動につなげていくことができることである。これらは，地球市民性を育む教材を考える上で，重要な要素だと考えられる。また，上記のような視点や力を育むための指導のあり方を合わせて検討していく必要がある。

加えて，今回査読者より，今後の展開の課題として，原爆絵本の描写の変化に関して，冷戦崩壊以降の社会的要因からの視点等という貴重な指摘を頂いた。本研究を今後展開させるにあたり，外国語教育の言語的観点からの分析・検討とともに，今後の課題としたい。

謝辞

本研究は，科学研究費20K02805の助成を受けたものである。

注

1）『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語活動・外国語編』では，教材として絵本が例示されており，その有効性が謳われている。また，アレン玉井（2011）は，子どもは物語や昔話等を通して登場人物に感情移入し，お話の中で出てくるさまざまな体験を通して「悲しさ」や「悔しさ」，「喜び」等の複雑な感情を経験することができるとしている。絵本等の場合は，与えられた絵から情報を読み取り，想像力を使って物語全体を理解するようになる。また，子どもは大人と異なり，言葉を丸ごと生きた文脈の中で体得していくため，意味ある文脈がある物語は，母語・第二言語を問わず言語習得において有効であると指摘している。

2）「原爆　絵本」のキーワードのみでは，絵本の中で原爆について描かれていても検索にかからない原爆絵本があることが想定されたため，キーワードを広げて検索を行い，筆者が現物を確認する方法で収集した。

参考文献

有馬明恵『内容分析の方法　第2版』ナカニシヤ出版，2021
アレン玉井光江『ストーリーと活動を中心にした小学校英語』小学館集英社プロダクション，2011
広島平和記念資料館『広島平和記念資料館総合図録―ヒロシマをつなぐ―』広島平和文化センター，2020
村上美奈子「広島･長崎を語り継ぐ原爆絵本―『心のケア』とどう折り合いをつけるか」『人間の福祉』第31号，2017
村上美奈子「原爆絵本リスト作成の歩み―広島・長崎の原爆を伝える絵本教材―」『人間の福祉』第32号，2018
村上美奈子「原爆絵本研究における脱集計化と脱中心化の試み」『人間の福祉』第35号，2021
村本邦子･芳賀淳子「歴史･平和教育における『二次受傷』をどう考えるか―立命館大学国際平和ミュージアムにおける平和教育の現状と可能性」『立命館平和研究』第15号，2014
文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』，2017
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』，2017
山下博美「教員が望む教材とは　イギリス地球市民教育：教員のニーズ研究を通して」『開発教育2006』Vol.53，明石書店，2006
UNESCO (2014) *Global Citizenship Education: Preparing learners for the challenges of the 21st century*, UNESCO.
UNESCO (2015) *Global Citizenship Education: Topics and Learning Objectives*, UNESCO.
UNESCO (2016) *Schools in Action: Global Citizenship for Sustainable Development- A Guide for Teachers*, UNESCO.

Content Analysis of Picture Books about the A-bomb Experience1: From the Perspective of Fostering Global Citizenship through Elementary School English Education

Hayumi OZEKI

Abstract

The purposes of this study are to conduct a content analysis of picture books depicting the A-bomb experiences from the perspective of fostering global citizenship, and to obtain suggestions for the development of teaching materials for use in elementary school "Foreign Languages" classes. As a result of the analysis, the following three points were suggested as necessary elements and points when developing teaching materials for today's children. First, it is necessary to take into consideration how to depict and discuss the A-bomb experience in the teaching materials, so that the children do not stop at the stage of knowing about it due to their fear at the introduction. Secondly, the A-bomb experience should not be viewed solely from the perspective of "Japanese" or "human beings," but should include elements that allow students to recognize and consider the existence and perspectives of diverse people and diverse creatures. Finally, it should include elements that will provide an opportunity for children to take action by learning about the reality of the A-bombing.

Keywords: elementary school English education, A-bomb experience, global citizenship, picture books, teaching materials